■百舌鳥大塚山古墳出土の土製品■

百舌鳥（もず）・古市（ふるいち）古墳群では、百舌鳥大塚山（もずおおつかやま）古墳、御廟山（ごびょうやま）古墳、白鳥陵（はくちょうりょう）古墳、応神天皇陵（おうじんてんのうりょう）古墳でミニチュア土製品が出土しています。

そのうち、御廟山古墳、白鳥陵古墳、応神天皇陵古墳では、アケビや魚介類などの食べ物やザルをかたどった土製品が出土しています。

兵庫県の行者塚（ぎょうじゃづか）古墳をはじめとする各地の古墳でも、同様の土製品が出土しており、類似した儀礼が各地の古墳で執り行われていたようです。

一方、百舌鳥大塚山古墳では、前方部にある第七号施設の真上から、家形埴輪の破片とともに、椅子や机、壺などをかたどった土製品が出土しました。

先ほど紹介した食べ物やザルなどをかたどった土製品とは異なり、生活用品をかたどっています。

家形埴輪の中に、調度品のように置かれていたのかもしれません。

その中でも、箱型の寝台と円筒状の枕で構成されるベッド状土製品は、全国唯一の事例です。

はっきりとしたモデルは不明ですが、当時日常的に使われていたベッド、または死者のためのベッドなどが考えられます。

今後、類似品が見つかれば、首長の日常や葬送儀礼の場におけるベッドの役割などに迫ることができるかもしれません。